

# 国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの  
メッセージ



## 仕事の幅が広がった 2 年間

恵庭市企画振興部企画課 主査 大林 泰子

私は 2010 年 4 月からの 2 年間をクレアシドニー事務所でお世話になりました。クレアシドニー事務所ではさまざまな出会いがあり、公私共に充実した 2 年間でした。

当時、派遣元の恵庭市はニュージーランド・ティマル市と初めての海外姉妹都市締結をしたばかりで、姉妹都市交流を推進するため、クレアに職員を派遣することとなりました。きっかけは、姉妹都市締結時、シドニー事務所の担当職員の活躍をみて、恵庭市にもこのような人材が必要と考え派遣を決断したと聞いております。

クレアシドニー事務所では、姉妹都市交流等を担当し、さまざまな姉妹都市交流のあり方を見ることができました。

交流事例は、報告書や写真などで知っているつもりでしたが、実際に交流の様子や雰囲気を感じ、関係者から直接話を聞くことで姉妹都市交流の進め方について学ぶことができました。



豪州姉妹都市委員会の役員との意見交換会

また、現地の自治体にインターンシップするというプログラムを活用して、ティマル市役所で 1 週間研修をさせていただきました。その時に交流を深めたティマル市役所の職員をはじめ、地域の皆さんとは、今でも仲良くさせてもらっております。この時にニュージーランドの自治体の役割等を体験し学ぶことができたことは、現在、交流事業を進める際に大いに役立っています。

クレアレポートの作成にあたっては、オーストラリアのジェンダーギャップ政策を調査しました。その中で、オーストラリアの自治体で活躍している現職女性市長・女性幹部職員へのインタビューをすることができ、私自

身の働き方について考える良い機会となりました。

また、シドニーには家族と滞在しておりましたが、子どもたちの小学校や保育所を通じて、驚くほどさまざまな文化的背景をもった方々につながり、多文化共生の豊かさと重要性について学ぶことができました。



ニュー・サウス・ウェールズ州・マンリー市長へのインタビュー

帰国後は、クレアでの経験を活かし国際交流等を担当し 6 年目になります。ここ数年、恵庭市内に居住する外国籍の方が増えてきており、クレアシドニー事務所勤務で学んだ多文化共生事業の進め方が生かされています。昨年度は、市民や在住外国人の方々に協力してもらい多言語生活情報マップ等を作成することができました。印象的な仕事としては、今年 6 月にニュージーランドの首相が恵庭市を訪問された際、市長の通訳として同席するという貴重な経験をしました。

担当業務は国際交流だけではなく、多種多様な事業調整を任されていますが、クレア時代に身につけた国を越えて相手を理解する姿勢や多角的な物の見方、そしてやり抜く力はさまざまな交渉の場面などにとても生かされていると感じています。海外などでの経験から、職場だけではなく地域からも頼りにされている実感があり、やりがいを感じます。クレアでの経験が無ければ、これだけ広がりのある仕事はできなかったと思います。

### プロフィール

- 現在の所属：恵庭市企画振興部企画課
- 現在の業務内容：各種事業調整、姉妹都市・国際交流
- クレア時代の所属：2009 年 4 月～2010 年 3 月  
クレア東京本部総務部企画課 主査  
2010 年 4 月～2012 年 3 月  
クレアシドニー事務所 所長補佐